

SERIES 明日のスポーツをめざして

岩手県ソフトテニス連盟

会長 新沼正博

温故知新、明日を語る時に、歴史を紐解き、先陣の足跡を辿ることが大切と考え、まず岩手県の軟式庭球（ソフトテニス）史の一端をご紹介します。

当連盟は、昭和12年（1937）に日本軟式庭球連盟傘下支部として発足しましたが、競技自体は明治35年頃（1902）まで遡り、岩手県にテニスが導入されたのは、さらに20年ぐらゐ遡って明治15年頃（1880年代）と言われておりますので、優に120年を超える歴史を有しております。この間、昭和45年岩手国体総合第3位、国体教員の部不滅の20連覇、平成11年岩手インターハイ黒沢尻北高校全国制覇、アジアを制した選手（佐々木公子、小原智子、菅野勝郎）、天皇杯に名を刻んだ選手（故石川恵脩）など数々の素晴らしい成績を残してまいりました。平成9年（1997）には、100年誌が故松本和男氏を中心に発刊され、軟式庭球（ソフトテニス）の歴史が集約されました。

そんな礎に立って、当連盟は2巡目岩手国体に向かって、今、選手強化を含む体制づくりに努めているところです。以前から取り組んできました一貫指導体制構築のための“いわて型競技者育成

プログラム”に基づき、小学生ジュニアからトップチームまでを一体的に強化しようとするものです。約8300名の会員一人一人が、それぞれの立場の中で、できることを一生懸命行うことで、全体的な底上げを図ろうとするものです。

過去の輝かしい戦績に比べやや低迷の感が否めなかった最近でしたが、昨年のミニ国体少年女子の優勝、ハイスクールジャパンカップ全国第3位の晴山美雪・安保利里那ペア（盛岡女子）、東北中学校を制した千葉未散、菊地はづきペア（北上市立上野中）、激戦区東北高校男子インドアを制した浅沼良輔・新屋圭吾ペア（盛岡工）など強化の成果が少しずつ出てきております。

県国体強化本部からは『ソフトテニス連盟の体制と強化計画は素晴らしい！後は結果だけです。』という評価を、いつかは『結果がついてきましたね。』と評価されるようさらに研鑽します。マンパワーだけはどこにも負けません。東日本大震災の復興国体に向けて、一人一役を肝に銘じ、精進し、新たな歴史を作りますので県体協はじめ関係各位の益々のご指導・ご鞭撻をお願いし、岩手県ソフトテニス連盟の紹介とさせていただきます。



平成24年1月、いわて型競技者育成プログラム宮古合同合宿風景
～講師はアドバイザーコーチ濱田武徳氏～
(実業団の名門、川口市役所監督や大学のトップ早稲田大学の監督の指導実績をもつ)



～同 宮古合同合宿 開会式の様子～